

地域活性化に向けた  
JAくらしの活動実践事例  
【Vol.1】

平成29年3月

宮城県農業協同組合中央会

## はじめに

第 38 回 J A 宮城県大会において、力強い農業と豊かな地域づくりを目指し、「持続可能な農業の実現による宮城県農業の復権」とともに、「豊かな農村地域社会の創造」を決議し、「J A 暮らしの活動」の実践強化と J A 事業によるインフラ機能の強化により地域活性化への貢献をすすめることとした。

また、農協改革における准組合員の利用のあり方については、農協改革の状況や利用実態等を調査して結論を得ることとされており、政府の規制改革推進会議等における議論の動向を引き続き注視していくことが必要である。

J A グループとしては、「J A 暮らしの活動」の実践を通じて、正・准組合員が各地域の J A 運動に積極的に参加・参画する「アクティブ・メンバーシップ」を確立し、結果として地域住民からも J A の事業・活動が必要とされているという実態を創り上げていくことが必要である。

本事例集は、J A 共済連が支援する「組合員・地域住民に対する J A 暮らしの活動」に対する助成措置を活用した活動を含め、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、「地域活性化への貢献」を行っている事例を取りまとめたものであり、今後、継続して事例紹介を行うこととする。

「J A 暮らしの活動」の実践に向け、各 J A に即した手法を十分検討のうえ、具体的な推進策の策定および実践に本事例をご活用いただければ幸甚である。

平成 29 年 3 月  
宮城県農業協同組合中央会

# 地域活性化に向けた J A ぐらしの活動 【 J A 仙台】

## I . J A の概況

- 本店所在地：仙台市宮城野区新田東 2 丁目 15-1
- 組合員数：32,663 人  
(正組合員 12,610 人、准組合員 20,053 人)
- 事業取扱高 (平成 28 年 3 月末現在)
  - ・貯金残高 2,802.7 億円
  - ・貸出金残高 1,021.5 億円
  - ・長期共済保有高 8,990.5 億円
  - ・購買品供給高 38.2 億円
  - ・販売品販売高 38.4 億円



## II . 主な取り組み概要

### 仙台市との連携事業“ここで給食”で地産地消

仙台市と J A 仙台は、平成 27 年度より、市立小中学校と一部の高校に地場産野菜を学校給食に提供する「ここで給食」を実施している。提供する野菜は、曲がりネギ、長ネギ、ちぢみユキナ、ユキナの 4 種類。いずれかの野菜を使用したメニューを学校や給食センターが検討し、各学校が 11 月から翌年 1 月の期間内に 1 回ずつ実施。事業名の「ここで給食」は、“ここで採れた野菜をここで食べてほしい”との地産地消の思いが込められている。平成 28 年度は 190 校で実施した。



さらに平成 28 年度は、「ここで給食」の一環として、11 月 14 日から 18 日までを「まるっと仙台産農産物の日」と題し、市内の小・中学校 10 校で、米と野菜のほぼ全てを仙台産で統一した給食を 1 回提供した。仙台市立沖野小学校では、11 月 14 日、仙台産の野菜を使ったピラフやポトフを提供、児童たちは地場産野菜を堪能した。長ネギを提供した (農) 井土生産組合

の大友一雄さんも出席し、ネギの栽培方法や特徴を解説したほか、児童からの質問に答えた。  
J A 仙台は、「ここで給食」に提供する野菜の品目選定や出荷者の調整、提供する 4 種類の野菜の特徴や栽培方法を紹介するチラシを作成したほか、ホームページ内に専用コーナーを設け、子どもたちに野菜の魅力を発信している。



# 地域活性化に向けた J A ぐらしの活動 【 J A 岩沼市】

## I . J A の概況

- 本店所在地：岩沼市中央二丁目 5 - 30
- 組合員数：3,530 人  
(正組合員 356 人、准組合員 3,174 人)
- 事業取扱高 (平成 28 年 3 月末現在)
  - ・貯金残高 288.7 億円
  - ・貸出金残高 108.8 億円
  - ・長期共済保有高 543.1 億円
  - ・購買品供給高 1.6 億円
  - ・販売品販売高 5 千万円



## II . 主な取り組み概要

### 高齢者向け無料送迎サービス『らくちん GO !』 による生活インフラ機能向上

J A 岩沼市では、70 歳以上の組合員が 3 割を占める。利用者ニーズに対応したサービスを提供し、生活インフラ機能を果たす J A の役割を高めるため、平成 28 年 7 月、高齢者向けに無料の送迎サービスを始めた。

貯金・共済の手続きのために J A に行きたいものの車を運転できない高齢者を支援する。「らくちん GO !」と名付けた専用車両を 1 台導入し、自宅から本店・支店まで「ドア・ツー・ドア」で送迎する。対象は 70 歳以上。

運行は、祝日と休業日を除く月～金曜日の午前 9 時から午後 2 時。事前予約制で、

前日の午前 8 時 40 分～午後 4 時に J A に申し込む。平成 29 年 2 月までの月平均利用者数は 19.1 人。J A では気軽な申込みを呼び掛けている。

今後は、岩沼市と連携し、高齢者の見守り活動も行う予定。



# 地域活性化に向けた J A ぐらしの活動 【 J A 名取岩沼】

## I . J A の概況

- 本店所在地：名取市増田一丁目 12-36
- 組合員数：6,703 人  
(正組合員 5,024 人、准組合員 1,679 人)
- 事業取扱高 (平成 28 年 3 月末現在)
  - ・貯金残高 555.7 億円
  - ・貸出金残高 130.8 億円
  - ・長期共済保有高 2,203.7 億円
  - ・購買品供給高 19.9 億円
  - ・販売品販売高 26 億円



## II . 主な取り組み概要

### 『やっパリ市』開催で地域に憩いの場を提供

J A 名取岩沼では月 1 回本店を会場に『やっパリ市』を開催している。管内の出荷組合等を通じての新鮮な地場産野菜・青果物や A コープ商品など盛りだくさんに販売。J A 各事業の紹介コーナーも設置しながら、地域住民のみなさんに幅広く憩いの場を提供している。平成 26 年 11 月よりスタートして、28 年 4 月からは毎月実施。

本店以外でも各支店で順次開かれ、J A 青年部や女性部の協力を得ながら餅、豚汁、玉こん、焼きそばやフランクフルトなどの軽食コーナー、餅つきの実演会、水ヨーヨーすくいや輪投げ、ぬり絵、バルーンアート、コマ遊び、などの縁日コーナーも展開。子ども連れでの来場者にも楽しんでもらえるような内容となっている。毎回多くの方々が会場を訪れて大いに賑わう。地域住民のみなさんに地域農産物や J A を知ってもらう機会になりながら交流を深めている。



# 地域活性化に向けた J A 暮らしの活動

## 【 J A みやぎ亶理】

### I. J A の概況

- 本店所在地：亶理郡亶理町逢隈田沢字遠原 36
- 組合員数：5,892 人  
(正組合員 4,213 人、准組合員 1,679 人)
- 事業取扱高（平成 28 年 3 月末現在）
  - ・貯金残高 671.8 億円
  - ・貸出金残高 73.7 億円
  - ・長期共済保有高 2,098 億円
  - ・購買品供給高 19.5 億円
  - ・販売品販売高 43.1 億円



### II. 主な取り組み概要

#### ハートフルクッキングで仲間づくり

J A みやぎ亶理では、J A をより身近に感じ、J A を拠り所に組合員や地域住民の交流を深めることを目的に、「米粉くらぶ」を結成。ハートフルクッキングを隔月開催し、「米粉」を使った料理・お菓子づくりに取り組んでいる。

東日本大震災により中断していたものの、女性部員らの要望により、平成 27 年 3 月に再開。J A 広報誌や声掛け等で集まった約 20 人が、中華マンやロールケーキづくりに挑戦しており、イチゴ栽培で忙しい会員も欠かさず参加する等、地域の貴重な仲間づくりの場となっている。

また、参加した女性部員が地元の女性部活動で講師役を務める等、活動が地域に広がりを見せている。

レシピは管内の組合員に月 1 回配布する J A 広報誌「みやぎ亶理」にも掲載しており、「米粉は色々使えることが分かった。とても参考になる」と好評を得ている。

J A では、今後も積極的な参加を求め、仲間作りを進めることとしている。



# 地域活性化に向けた J A ぐらしの活動 【 J A あさひな】

## I . J A の概況

- 本店所在地：黒川郡大和町吉岡南三丁目 6-2
- 組合員数：7,591 人  
(正組合員 5,746 人、准組合員 1,845 人)
- 事業取扱高 (平成 28 年 3 月末現在)
  - ・貯金残高 436.4 億円
  - ・貸出金残高 140.6 億円
  - ・長期共済保有高 2,365.5 億円
  - ・購買品供給高 31.6 億円
  - ・販売品販売高 41 億円



## II . 主な取り組み概要

### 女性大学～はぴすまカレッジ～で女子力急上昇

J A あさひなは、管内在住の女性を対象に平成 24 年度から「女性大学～はぴすま (はっぴー & すまいる) カレッジ～」を開校している。

第 3 期は平成 28 年 6 月に開校、21 人の女性が 2 年間 15 回の講義を通して J A を拠り所に新しい仲間をつくり、やりたいことの発見や自分磨きの場となるよう取り組んでいる。参加者は 30 代から 60 代と幅広い年代、託児を設けることで小さい子どもを抱える女性でも気軽に参加できる環境に配慮した。

また、毎回“ J A の時間”を設け、常勤役員が講師となり『家の光』をテキストに、協同組合の特徴や J A 事業について学び知識を深めている。

開校日には第一回目の講義を行い、紅茶研究家で株式会社ガネツシュの阿部耕也代表取締役を講師に招き、紅茶の美味しい淹れ方を学んだ。

第 2 回目以降は、資生堂販売株式会社のビューティーコンサルタントを講師に招いて学ぶ基本的なメイク方法や、COM 消費生活創研の伊藤豊子氏を講師に同 J A 管内産の旬の地場産野菜を使用したクリスマス料理作りなどを行ない、美容、料理、健康と様々な面から仲間とともに楽しみながら女子力をアップさせている。



# 地域活性化に向けたJAくらしの活動 【JAみやぎ仙南】

## I. JAの概況

- 本店所在地：柴田郡柴田町西船迫一丁目 10-3
- 組合員数：30,516人  
(正組合員 19,069人、准組合員 11,447人)
- 事業取扱高（平成28年3月末現在）
  - ・貯金残高 1,131.5億円
  - ・貸出金残高 358億円
  - ・長期共済保有高 6,989.1億円
  - ・購買品供給高 49.6億円
  - ・販売品販売高 80億円



## II. 主な取り組み概要

### あぐりキッズ農業体験活動かべ新聞コンクール

JAみやぎ仙南は、青年部・女性部と連携し、管内の小学校や地域の子ども達を対象に、「食農教育」を積極的に展開している。1年を通じた農業体験や地場産野菜を使った料理教室などの活動を通じて、働くことの大切さ、学ぶ楽しさ、達成感、人や動物への思いやり、仲間との協調性を育てている。

この活動の一環として、子ども達が学習成果をかべ新聞として競う「あぐりキッズ農業体験活動かべ新聞コンクール」を実施。今年で11回となる同コンクールには、過去最高となる18団体から28作品が応募された。

2月4日、同コンクールの表彰式・発表会を蔵王町で開催。学校関係者をはじめ、青年部員や女性部員など350人が参加。事前に開いた審査会で最優秀賞（みやぎ仙南農業協同組合組合長賞）に輝いた村田町立村田第二小学校4年生を含む7つの団体が表彰を受けた。

発表会では、パワーポイント等を用いながら、農業体験活動を通じて学んだことや感じたこと、青年部・女性部との交流を生き生きと発表。「これからの日本農業が生き残るための4つのポイント」を提言する小学校もあり、来場者はかべ新聞と発表内容の出来に感心していた。



# 地域活性化に向けた J A ぐらしの活動 【 J A 古川 】

## I . J A の概況

- 本店所在地：宮城県大崎市古川北町三丁目 10-36
- 組合員数：11,094 人  
(正組合員 9,096 人、准組合員 1,998 人)
- 事業取扱高 (平成 28 年 3 月末現在)
  - ・貯金残高 608.4 億円
  - ・貸出金残高 184.6 億円
  - ・長期共済保有高 2,486.2 億円
  - ・購買品供給高 26.2 億円
  - ・販売品販売高 57.9 億円



## II . 主な取り組み概要

### ミニデイサービス『ひなたぼっこ』 ～女性部・助けあい組織「にじの会」～

高齢化が急速に進行するなか、J A 古川は、女性部や助けあい組織「にじの会」の協力のもと、平成 8 年からミニデイサービス『ひなたぼっこ』の開設や福祉施設での奉仕活動等ボランティア活動を展開し、安心して暮らせる豊かな地域づくりに取り組んでいる。

また、福祉活動の一環として地域に貢献できる人材育成など、地域の「いきがいづくり」を支援している。

この活動を担う「にじの会」は、現在 31 人が所属しており、地域の集会所等で開く『ひなたぼっこ』で演芸やレクリエーションを披露するなど、地域の高齢者に笑顔と生きがいを届けている。

同会の高橋邦子会長は「地域に根ざした活動を大切にし、人とのふれあいの中で、日々勉強しながら楽しく活動する」ことをモットーに掲げている。

平成 28 年度は、『ひなたぼっこ』を 1 支店あたり年 2 回開催するほか、女性部員による福祉施設の除草作業等に取り組むなど、地域密着型の福祉活動を展開している。



# 地域活性化に向けた J A ぐらしの活動 【 J A 加美よつば】

## I . J A の概況

- 本店所在地：加美郡色麻町四竈字爪木町 14- 1
- 組合員数：8,032 人  
(正組合員 7,010 人、准組合員 1,022 人)
- 事業取扱高 (平成 28 年 3 月末現在)
  - ・貯金残高 457.4 億円
  - ・貸出金残高 95.7 億円
  - ・長期共済保有高 2,570.5 億円
  - ・購買品供給高 39.9 億円
  - ・販売品販売高 72.1 億円



## II . 主な取り組み概要

### 集落営農を核とした地域づくり

J A 加美よつばでは、全集落の 92%にあたる 69 の集落営農組織を職員がサポート、飼料米や加工用野菜の生産振興に取り組む他、集落営農を核とした地域づくりを支援している。

加美町の農事組合法人『K A M I X』は、水稻、飼料用米、大豆、長ネギを栽培。「集落は農家と非農家で構成されており、集落営農は集落の生活を維持していく活動」との考えから、農作業の予定等を集落内の全世帯に周知、野菜づくりに非農家の若い女性が参加する等交流の場となっている。

また、仙台市内の小学生を対象としたグリーンツーリズムの受入等都市住民との交流をすすめている。集落内の小学校移転に伴い改修された中新田交流センターに宿泊する子どもたちに地域の農産物を使った食事も提供しており、集落内の全世帯に声掛けし協力を得ている。予め勤務先に休暇を届け出、子どもたちとの交流事業を心待ちにする人がいるほど今では集落の恒例行事として定着している。

今後も、集落の維持・発展と次代を担う子どもたちや消費者の農業理解に向け、J A は集落営農組織に対する支援を続けることとしている。



# 地域活性化に向けたJAくらしの活動 【JAいわでやま】

## I. JAの概況

- 本店所在地：大崎市岩出山下野目字二ツ屋 39
- 組合員数：3,739 人  
(正組合員 2,764 人、准組合員 975 人)
- 事業取扱高（平成 28 年 3 月末現在）
  - ・貯金残高 134 億円
  - ・貸出金残高 25.5 億円
  - ・長期共済保有高 821.4 億円
  - ・購買品供給高 15 億円
  - ・販売品販売高 22.4 億円



## II. 主な取り組み概要

### くらしを支える『購買店舗併設型金融移動店舗』を運行

鳴子支店の金融・共済窓口並びに鬼首店、真山店の購買窓口に代わる新規事業として、購買店舗併設型金融移動店舗車の運行を平成 29 年 1 月 16 日に開始した。急速に高齢化が進行するなか、高齢者に対するライフライン機能を発揮している。購買店舗併設型の金融移動店舗車は東北初。

車両には金融担当職員 2 人と購買担当職員 1 人が乗車、真山・鬼首地区でそれぞれ週 2 回、鳴子地区では週 4 回営業している。貯金の入出金、公共料金や税金の支払いに対応し、共済の取次、ローンの相談も受け付ける。

3 地区にはスーパーマーケットがなく買い物に困る組合員も多いことから食料品も販売。冷蔵ケースや冷蔵庫を備え、組合員の要望に基づいた惣菜や日配品、菓子、飲料、日用雑貨等を販売している。

1 日平均の利用件数は 38.8 件、利用者からは、「車が運転できないので助かる」と好評を得ている。



# 地域活性化に向けたJAくらしの活動 【JAみどりの】

## I. JAの概況

- 本店所在地：遠田郡美里町素山町1番地
- 組合員数：16,357人  
(正組合員12,723人、准組合員3,634人)
- 事業取扱高(平成28年3月末現在)
  - ・貯金残高1,016.1億円
  - ・貸出金残高247.3億円
  - ・長期共済保有高4,997.5億円
  - ・購買品供給高54.9億円
  - ・販売品販売高110.3億円



## II. 主な取り組み概要

### JAの独自性を発揮した子育て支援活動

「PIKAPIKAMAMAくらぶ」はJAみどりのが実施する子育て支援活動。平成22年度、涌谷地域での活動を皮切りに、平成27年度には本店での実施、平成28年度は管内6つの全地域での実施へと活動の輪が広がっている。

今年で7年目となるこの活動は、女性部組織の協力のもと、JAの組合員に限らず、子育てに奮闘する多くの若いママ達を対象とした地域協働活動として、更には女性部組織の仲間づくりの場としてJAと若い世代を繋ぐ貴重な場所となっている。

活動内容は地域毎に多岐にわたっているが、親子で一緒に取り組める「ベビーマッサージ」や「リズム遊び」、「食農教育・収穫体験」、更にはママ達を対象とした「お料理やおやつ作り教室」、「手芸教室(布絵本作りなど)」を実施。

地域によっては行政(子育て支援センター)と連携しながら活動をすすめており、この活動を通じ、JAや女性部組織の活性化はもちろん、地域の元気づくりにも繋がることを期待されている。



# 地域活性化に向けたJAくらしの活動 【JA栗っこ】

## I. JAの概況

- 本店所在地：栗原市志波姫堀口見渡 2-1
- 組合員数：14,913 人  
(正組合員 11,971 人、准組合員 2,942 人)
- 事業取扱高（平成 28 年 3 月末現在）
  - ・貯金残高 990.8 億円
  - ・貸出金残高 188,8 億円
  - ・長期共済保有高 5,545.5 億円
  - ・購買品供給高 30.1 億円
  - ・販売品販売高 127.5 億円



## II. 主な取り組み概要

### 健康教室をシリーズ開催 ～楽しく、ムリなく、“健康寿命”を延ばそう！～

JA栗っこでは、『楽しく、ムリなく、みんなと一緒に「ゆとり」「いきがい」をもって“健康寿命”を延ばそう！』と、組合員・地域住民を対象に「健康教室」を開催している。この活動はJAグループが取り組む「百歳元気プロジェクト」の一環で、「運動」「食事」「健診」を通して、百歳まで自立した心と体をつくる取り組み。JAが女性部リーダーを中心とした百プロ推進員に研修を実施、推進員が講師を務める等指導役を果たしている。

健康教室は、平成 28 年 6 月に開講。約 40 人が年 4 回シリーズで、健康に関する基礎知識や、百プロ推進員の指導による「百歳元気にここに体操」、「レインボー体操」、「歯(し)あわせ体操」等を学んだ。

9 月にはウオーキングを実施。大崎市鳴子周辺の隠れた名所を時間をかけゆっくり巡り、「宮城県農民の家農協」の効能ゆたかな温泉で疲れを癒した。

平成 29 年 1 月に行われた「認知症サポーター養成講座」では、認知症の症状や対応方法を学んだ。参加者は「高齢化が進行するなか、地域全体でくらしを守るためにも認知症に対する理解が重要」と話している。



# 地域活性化に向けたJAくらしの活動 【JAみやぎ登米】

## I. JAの概況

- 本店所在地：登米市迫町佐沼字中江3丁目9-1
- 組合員数：16,116人  
(正組合員13,657人、准組合員2,459人)
- 事業取扱高（平成28年3月末現在）
  - ・貯金残高1,272.1億円
  - ・貸出金残高285.9億円
  - ・長期共済保有高6,528.1億円
  - ・購買品供給高98.1億円
  - ・販売品販売高179.3億円



## II. 主な取り組み概要

### JA女性部「食農プロジェクト」

JAみやぎ登米は、平成27年8月、食農活動の拠点として「食農伝承館“和（なごみ）”」を設置し、組合員や地域住民、次代を担う子ども達との交流を深めている。

同JA女性部は、平成28年6月、「食農プロジェクトチーム」を設立、郷土料理や地元農畜産物を使った料理講習会等の食農活動を展開している。女性部支部長8名と各町域から伝統的な食文化や農業に関する知識が豊富な部員が参加、現在は部員約30名が所属する。

初年度の取り組みは、百歳元気プロジェクト「乳和食」の推進。日頃の塩分摂取の多さに食生活を見直そうと、チームのメンバーが各町域で講習を行った。

8月には、管内の小学生と保護者、フレミズ部員も参加し、伝統料理の「ずんだもち」作りを実施。豆の収穫、茹でた豆の皮むき、すり鉢・すりこぎを使用し、昔ながらの餡作りを体験。手間暇をかけた本来の味を伝えることが出来た。

11月には、「クッキング・フェスタ」を開催した。管内の農畜産物を使った料理をメンバーが調理。参加した地域住民らに地元農畜産物の良さを再認識してもらうとともに、食の大切さも伝えられた。

活動は始まったばかりだが、次年度には、地元農畜産物を活用した商品開発などにも挑戦することとしている。



# 地域活性化に向けた J A ぐらしの活動 【 J A 南三陸】

## I . J A の概況

- 本店所在地：本吉郡南三陸町志津川字廻館 97
- 組合員数：10,963 人  
(正組合員 5,532 人、准組合員 5,431 人)
- 事業取扱高 (平成 28 年 3 月末現在)
  - ・貯金残高 685.1 億円
  - ・貸出金残高 127.3 億円
  - ・長期共済保有高 3,205.6 億円
  - ・購買品供給高 28.0 億円
  - ・販売品販売高 12.7 億円



## II . 主な取り組み概要

### 南三陸病院への大型テレビの寄贈、有害鳥獣対策支援で J A の存在感を発揮

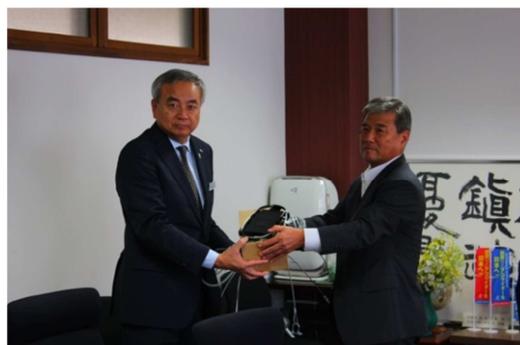
J A 南三陸は平成 28 年 9 月、組合員・地域住民へのぐらしの活動の一環として、南三陸病院へ大型テレビを寄贈した。南三陸病院は東日本大震災で被災し、平成 27 年 12 月に復旧。利用者や住民から、待合室で情報を得るために必要なテレビ設置の要望が多いことを受けて対応したもの。高橋組合長は「日常の生活情報、緊急時の情報提供などで地域住民に役立ててほしい」と話している。



また、平成 28 年 10 月、地域貢献活動の一環として、二ホンジカによる農作物被害が甚大な気仙沼市へ、捕獲用「くくり罠」100

セットを寄贈した。市では、平成 27 年度に気仙沼市鳥獣被害対策実施隊を設置し、約 600 頭の二ホンジカを捕獲しており、J A では、くくり罠の寄贈を今後 3 年間継続する予定。

J A では、地域の活性化に向け、地域の実情・課題に応じた支援を継続することとしている。



# 地域活性化に向けた J A 暮らしの活動

## 【 J A いしのまき 】

### I . J A の概況

- 本店所在地：石巻市中里五丁目 1 -12
- 組合員数：17,566 人  
(正組合員数 10,125 人、准組合員 7,441 人)
- 事業取扱高 (平成 28 年 3 月末現在)
  - ・貯金残高 1,492 億円
  - ・貸出金残高 407.4 億円
  - ・長期共済保有高 6,409.7 億円
  - ・購買品供給高 70.4 億円
  - ・販売品販売高 111.7 億円



### II . 主な取り組み概要

#### 「アグリチャレンジ農園」で農業の魅力を伝える

J A いしのまきは、東松島市大曲の圃場に「アグリチャレンジ農園」を開設。参加者ごとに畑を貸出し、好みの野菜を栽培。J A は農園の運営や栽培指導を行うなど積極的に支援し、農業の楽しさと魅力を伝えている。

11 月 5 日には、収穫祭を開き 14 組 30 人が参加。参加者は収穫時期の目安やとり方を J A 職員に教わりながら、自らが栽培したハクサイやニンジン、ダイコンなどを収穫。とれたての野菜を使って、仙台風と山形風の 2 種類の芋煮を作り、それぞれが持ち寄った手作りのおにぎりや漬物などと一緒に味わった。また、事前に収穫したサツマイモを用いた焼き芋は「甘くておいしい」と子どもたちからも好評。

参加者は「自分で植えた野菜を収穫できてうれしい。来年はもっと広い畑で他の野菜も作ってみたい」と話した。



